

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800209		
法人名	社会福祉法人恵寿会		
事業所名	認知症高齢者グループホームグリーンヒルましき		
所在地	〒861-2223 熊本県上益城郡益城町小池2664		
自己評価作成日	令和3年3月17日	評価結果市町村受理日	令和3年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様との関りは集団よりも個別を重要視しています。中でも「会話」に力を入れており、日本一会話の多いグループホームを目指しています。より多くのコミュニケーションを図ることで、表情や言葉の端々にその方が本当に必要としていることや求めていると感じ取ることが出来ます。また、「笑顔」を引き出すことも大切にしています。一日に一度は心の底から笑顔になっていただくよう努めております。入居者様から希望があれば、可能な限りの実現を達成できるよう、日々対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から入居者一人ひとりがあるがままに受け入れ、したいことや出来ることを見出した生活のびやかで、生き生きと表情豊かである。入居者は職員の見守りの中で、中庭でキャンパスに向かう方、ギターを奏でたり、菜園作り、晩酌等自由気ままな生活ぶりであり、“個”を視点にしたケアを徹底している事が表出している。理念に謳う「笑 話 和」の実現に真摯に向き合い、感染症対策の徹底や、外出への制限もあるなかで笑いを引き出しながら、楽しい環境を全職員で作りに出している。職員一人ひとりがアクティビティ・ディレクターや認知症サポーターキャラバンメイトの資格を取得するなど現状に満足すること無くスキルアップへ取り組む等志向の高さも表われ、意思疎通の良い関係はアイデアも豊富であり、地域の中でそのスキルも発揮されることを望みたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末の3月に次年度の部門方針、新年度の4月に施設の理念を勉強会にて説明し職員全体で意識の統一、共有を行い取り組んでいる。	理念である『ようこそ わが家へ！笑 話 和』…をもとに話し合い、楽しい環境作りに努めている。また「自分の家族に入って欲しいグループホームを作る」をスローガンとして、目標を具体的掲げている。退職者ゼロや長期入院へ繋げない・ヒヤリハットにより事故を未然に防ぐ等を全職員が共有している。入居者と職員が時には笑い合いながらの家庭的な環境が形成されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響でマシホルクの使用が出来ておらず交流が出来ていない。地域では近隣のご家族様と畑作業の指導、手伝いをして頂き交流を行っている。	自治会に加入し、区長から広報誌や地区の行事等をリサーチし、地域サロンや境内の草刈り等への参加や、初会開催の連絡等も受けている。例年であれば、マシホルクでの交流や下校中の小学生の立ち寄りの場として提供し、世代間を超えた交流に努めている。新型コロナウイルス感染症予防対策として現在は交流を控えている。	ホームにはアクティビティ・ディレクターの有資格者もおられることから、地域サロンが再開されたら、そのスキルを発揮いただきたい。認知症サポーターキャラバンメイトとしても活躍されており、地域への認知症ケア啓発に大いに期待したい、	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンメイト養成研修を受講し資格の取得した。学生に認知症の啓発活動を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で運営推進会議が開催できていない。令和3年1月より、文書のみで報告している。	コロナ感染症対策として開催を控えていたが、3年1月より文書での開催とし、入居者の状況やリスクレベルに応じた感染対策等を行政に報告している。	次年度からは隔月の開催が予定されており、文書開催時には行政の他、構成メンバーにも資料を配付され、意見等を収集いただきたい。委員の皆さんからの意見等をサービスに反映されることが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場に赴いた際には担当の職員の方と情報交換を行い協力体制を構築している。	行政とはメールでのやりとりや、直接役場を訪問し相談や情報交換を行い、地域包括支援センターには入居者情報を伝達するなど入居者が関わる関係機関との相互協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例検討を行い意見、質問の勉強会を行っている。身体拘束を行わない適切なケアの意見を出し合い職員全体で考え取り組んでいる。	法人全体での身体拘束適正化委員会の中での事例検討と共に、ホーム内でも勉強会を行い意識を強化させている。「それで良いか?」「何が問題点だと思ったか」と高い意識を持って臨むホームである。外周傾向の高い入居者対応として、職員の寄り添いの中で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等の内部研修中で虐待防止に取り組む必要性についての知識向上、構築に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の関する復命研修を、勉強会を行い必要性の説明を行っている。当ホームでも、ご家族の希望で、成年後見制度を利用し、弁護士を後見人として利用している事例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は丁寧かつ十分な説明を行い納得された上で契約を行っている。ご家族様の質問に分かりやすく説明し納得される事を重視し契約書を作成、締結している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で些細な事でも見落とさずご意見を聞き出している。また、こちらから要望、ご希望がないか伺い、要望等の項目に対し職員と協議し決定事項の共有に努めている。	入居者には日常の会話の中で意見等を聞き取りしている。家族には現在面会が難しい状況もあり、密な連絡を行いズームでの会話により意見や要望等を聞き取りしている。コロナ禍で面会も難しい状況にあり、家族向けの広報誌を作り情報を発信する構想もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員から出た意見、疑問を話し合い統一した指針を打ち出している。新しい取り組みを否定せず、より良い結果に繋げていけるよう職員から出た意見を大切にしている。	会議前に業務上の意見や要望等グループラインで収集し、出された案件を協議する体制としている。管理者と中心として風通しの良い関係が意見や提案を出しやすい環境となり、目標設定も全職員で決定し、四半期毎に精査している。また、管理者は、職員の顔色等も伺いながら、個別面談により相談等を聞き取りしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、全職員の勤務姿勢、実績、取り組み等を把握し職員が業務に励める環境づくりを行っている。職員の満足度調査も行っており面談で直接、聞き取りを行い整備の取り組みに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響で外部、事業所の全体勉強会は密になる為、行える環境ではなかった。事業所独自の勉強会にて様々なテーマについて協議し自己向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東京の神明園(特養ホーム)とZOOMを使用した意見交換、研修を行い外部の取り組みの良い点を参考に事業所でも採用し相互作用の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は環境の変化に作用される事が多く見られる為、訴えの傾聴、共感を行い優しき思いやりの心を常に持ち支援している。入居者様の意向に沿ったケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	GHに入所に至るまでの経緯を伺い、ご家族の悩み訴え要望を聞き取り、一つずつ不安を解消できるよう分かりやすく説明する事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴や現在の状況を基に、ご家族やご本人からの要望の聞き取りを行いその方に合ったプランの作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事を否定せず共に行う事を常に持ち支援している。他入居者様との交流の橋渡しとなるよう職員が見守り感謝の気持ちを忘れず寄り添う姿勢を持ち関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月、状況報告を行っている。ZOOMを使用した面会も行っており、いつでも家族様入居者様の声、顔を共に見聞きする事が出来る環境づくりが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で外出の機会は制限されているが、電話やオンライン面会を活用し関係性の維持に努めている。また、本人様の希望により物品の購入を職員が行い喜んで頂けるような支援に取り組んでいる。	これまで通りの馴染みの場所への外出は控えているが、近くの神社への初詣や郵便局等へ出かけている。電話やオンライン面会により家族等との関係が途切れないように支援し、ギターを奏でたり、毎日キャンパスに向かう入居者、離職もない職員体制も馴染みの関係構築に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声掛け等を行い一人になる時間を作らせないよう職員が支援している。他入居者様と、おやつ作り、工作等を共に楽しみながら日常生活を過ごして頂ける支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了、退去されても、ご家族様へ些細な事柄でも相談して頂いてよい旨を、お伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身の思いを伝えられても否定せず共感する姿勢を職員が持ち入居者様の不安、思いをくみ取る力を養っていき本人様の立場に立ってのケアに取り組んでいる。	職員は日々入居者との会話に努め、その中から思い等を把握したり、「○○したい・行きたい」等直接の申し出もある。発語困難な状況にも表情等から推察したり、うなづきを意思として捉え、意味不明な言動の裏にある真意を探る等、本人本位になるよう情報を共有し、プランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで過ごされてきた時間を尊重している。皆様の生活歴は異なる為、ご本人様の希望ご家族様からの会話の中からサービス利用の情報に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを行っている。日頃より状態変化に関して注意をはらっており職員間で情報の共有を行っている。また残存機能を保つ為、その方に合った手伝い等をお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員からの気づきの意見を大切にしている。状態の変化に伴う事柄をご家族様に報告し安心して過ごして頂けるよう立案しモニタリングを行いより良いケア提供に繋がれるよう努めている。	本人の希望を第一に考え、本人の意向を踏まえた具体的なプランを作成している。定期的な見直しの他、日々のケアの中での状態変化時の話し合いや、状況によっては基本情報からの見直し等現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした変化を見逃さず記録に記載している。その際には職員に報告を行い情報の共有を行っている。注意が必要な際には職員間で話し合いの時間をもち見直し検討の場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の微妙な変化を見逃さずご家族様に報告。要望があった際には職員間で協議し実行、改善を図っている。また新しい気づきに対しても職員間で話し合いを行い安心したケアの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響で面会、外出が出来ておらず。その中で今まで過ごされてきた地域の話聞き勉強させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医の定期的な回診、訪問診療の必要時の受診など、他の専門病院受診の際には、紹介状を発行して頂き、職員が付き添い適切な医療を受けられるように、支援している。	全入居者が地域にある協力医療機関をかかりつけ医として、二週間毎の訪問診療を受けている。職員は、バイタルチェックや日々の健康観察から異常を早期に見極め、看護職員や主治医への連絡及び指示を得て医療につなぎ、専門医への受診が必要な場合にはかかりつけ医からの紹介状により適切な医療を支援している。カンファレンスに本人・家族の他、訪問歯科等も参加され、話し合いが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察による変化、気づきの発見の際には看護師へ報告、時にはDrへ連絡し指示を仰いでいる。現場の意見も大切に連携協会に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には定期的な連絡を行い状態の報告を受けている。ホームで過ごされていた時との変化の報告が確認された場合、実際に病院に赴き職員が目で状態の確認、病院からの詳しい現状を聞き取り退院時でも支援が行える体制づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の意向を尊重し、その方らしい方針を職員と検討している。ご家族も納得された上で主治医との話し合いを持ち今後の安心して過ごせるケアの提供に取り組んでいる。看取りの際には職員全体からの意見を聞きケアの統一、支援に取り組んでいる。	本人・家族の意向に寄り添い、望まれる最良の支援に応じることとしている。過去二例の看取りを支援しており、職員は主治医と連携し入居者の声に耳を傾け、最後まで好物を口に運びながら、その方らしい最終章を支援している。	入居者を偲び、“入居者や家族の望まれる支援であったか、入居者の為と思って行った事が適切であったか”と、職員同士が声を出し合う等忍びのカンファレンスを開催している。今後も、入居者・家族の意向を優先し、その人らしい最終章を支えていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法、心肺蘇生技術の定期的な勉強会を行っている。救急搬送時のマニュアル作成、夜間待機者を設けており救急の際にも対応できる体制づくりを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所で防災管理部門が存在し各防災時の発生時の詳細なマニュアルが作成されている。発生時のグループ全職員の応援体制も決められており、各部署への周知徹底、防災意識の高い法人である。	火災や自然災害時等有事の際の避難・誘導・人員体制等をマニュアル化し、職員に危機意識を高めながら、年2回の訓練を実施している。今年度は交流室を避難所とした通報・避難訓練や机上訓練を行い、備蓄として3日分の食料品や備品を準備している。	ホームではAEDを設置しており、地域への啓発や運営推進会議が再開された場合にはAEDの使い方の講習会も検討いただきたい。更に、地域交流室を福祉避難所として地域への貢献も視野にした取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会、勉強会にて啓発活動を行っている。人生の先輩である事を肝に銘じ接遇を重んじた対応に徹している。問題ある対応者に関しては役職者より指導を行っている。	入居者への尊厳やプライバシーについての目標を立て、自尊心を大切にするにはどう対応するか自分自身の言動と照らし合わせ検討している。また、言葉遣いには十分注意し対応している。呼称は苗字にさん付けを基本として、下の名前や若かりし日の呼び名等本人の希望を聞き取りし対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味、特技、性格を事前に把握し無理をされない範囲で本人様の出来る事を支援している。本人様との会話中、対応の中で自身にて決定できる方向に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴、時間を尊重しホームでも同様な生活ができるよう、その方に合った生活パターンを提供、支援している。日々、変化する状態、考があった際には職員が話し合い安心した生活が送れるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の化粧、衣類の好み等を大切に思い実践している。女性入居者様のカット等も訪問理容の予約にて対応しており、身だしなみやおしゃれを通して生活感を感じて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にも食材の切込み等のお手伝いを行って頂いている。ホーム内にある畑で収穫した食材を使用し季節感も味わって頂きながら支援をしている。また配膳、片付けも共に行っている。	毎食ホームで作る料理は、地域から購入した食材や、菜園の野菜、近隣から差し入れられた旬な野菜等を活用し、見た目も工夫しながら提供している。入居者の中には自発的な調理の手伝いや配膳等に精を出される方、分担しながらの食器洗い等出来る力を生かし、両ユニットが賑やかに食事をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本としている。栄養バランスに隔たりが無いよう提供している。その方の嚥下状態に適した食事形態を考へトロミの使用も行っている。状態の変化が見られた際には職員間で話し合い刻み食等の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い実施している。歯ブラシに歯磨き粉をつけて行って頂く等、見守り対応している。スポンジ、ガーゼを使用し必要な方には介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。また訪問歯科の依頼を行っておりアドバイスを頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しその方の排泄傾向を把握している。トイレ誘導の声掛けを行い自然排泄ができるよう支援している。また、その方に合ったパット種類を考えている。	排泄チェック表で間隔を把握し、入居者の表情・行動などを見ながら声掛け・誘導を行っている。自立され自らトイレに行く方が多く、日中は全員の方がトイレでの排泄を基本としている。夜間帯にポータブルトイレを使用される方には転倒防止に努めている。また、入居者個々の尿量や時間帯等により排泄用品の使い分け、家族の負担軽減も視野に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食材の提供に心掛けている。また水分摂取量を確認している。排泄時に腹部マッサージを行い自然排泄に繋がる介助を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方に入浴したいとの突発的な希望にも応じその方の希望に応じた入浴支援を行っている。身体状況に応じて入浴日を変更している。季節毎のゆず湯等を行って季節感を味わって頂いている。	入浴は日中に支援しているが、希望があれば夕方や夜間にも支援している。冬場は週2回、春から夏にかけては2～3階を入浴日として拒否がある方へは声かけ等工夫しながら支援し、同性介助の要望にもスムーズに対応している。畑仕事が終わるとシャワーをされる方等好きな時間帯の入浴にも対応している。ゆずやしょうぶ湯等楽しみな入浴に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、小時間の臥床時間を設け身体に負担のないよう取り組みを行っている。入床時間は決まっておらず、その方の希望に応じている。その際は休まれるまで寄り添い会話をしながら過ごす等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の処方内容をケースに保管、確認できるよう管理している。薬については質問には看護師に尋ね処方変更時には記録に記載し周知している。服薬チェック表を作成し服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った好まれている作業を尊重して共に実行している。皆様、得意分野があり共に実施する事で楽しみを感じて頂ける支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で外出支援が行われていない。	今年は遠出の外出は避けているが、コロナ感染の動向を見ながら桜見学や神社参拝等密にならない場所を検討し外出を支援している。また、入居者の外出したい、買物に出たいとする意向に応え個別に対応している。入居者の中にはデッキでいつも見てきた飯田山を眺めながらの日向ぼっこや、菜園での野菜の育ち具合を確認しながら過ごされている。	今後も、天気の良い日には近隣への散歩や家族の訪問時には協力を得ながらの外出等を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には自身にて現金を所持しておられる方がいる。以前より、そのような環境のもと生活されていた事を尊重しており所持金額の確認は施設側が行っている。コロナ禍の影響により職員が必要物品の買い出しを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には、ご家族様へ連絡、会話をさせて頂いている。最近ではZOOMを使用した取り組みを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い所にソファを設置し日光浴をしながら会話を行う等、過ごして頂いている。入居者様の絵画、書道等を展示している。芳香剤を使用し心地よい環境づくりの工夫を行っている。	玄関周りには草花を植え、入居者の作品(書や絵画)が掲示された室内は感染症対策に特に掃除や消毒を徹底した明るく清潔な空間である。新聞を読んだり、職員との会話により午後のひと時を過ごし、対面式の台所に入り、主婦の腕前を発揮させる入居者等心地よい環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを複数設置してあり自由に使用できるようにしている。ソファで休まれたり、仲睦まじく会話されたりされている。居室で自由に過ごされる方もおられ思い思いの時間を過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた物品等を居室内に設置し以前の様子で過ごして頂いている。ご家族様の写真を飾られともに過ごされている環境づくりを行っている。	入居時に居室への持ち込みについて特に制限もなく、自宅使われていた馴染みの物の持ち込みを依頼している。ベッドはホームで準備し、畳ベッドや可動式ベッド等状況により使い分け、アンティーク家具やテレビ、本や家族写真等動線を考え配置されている。毎朝入居者と職員が一緒に掃除をされる等居心地の良い環境を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様の行動を見守り、すぐに対処できるよう取り組んでいる。安全な環境づくり危険物の撤去、改善を行いながら「できること」を行えるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800209		
法人名	社会福祉法人恵寿会		
事業所名	認知症高齢者グループホームグリーンヒルましき		
所在地	〒861-2223 熊本県上益城郡益城町小池2664		
自己評価作成日	令和3年3月17日	評価結果市町村受理日	令和3年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様との関りは集団よりも個別を重要視しています。その中でも「会話」に力を入れており、日本一会話の多いグループホームを目指しています。より多くのコミュニケーションを図ることで、表情や言葉の端々にその方が本当に必要としていることや求めていると感じ取ることが出来ます。また、「笑顔」を引き出すことも大切にしています。一日に一度は心の底から笑顔になっていただくよう努めております。入居者様から希望があれば、可能な限りの実現を達成できるよう、日々対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末の3月に次年度の部門方針、新年度の4月に施設の理念を勉強会にて説明し職員全体で意識の統一、共有を行い取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響でマシモルクの使用が出来ておらず交流が出来ていない。地域では近隣のご家族様と畑作業の指導、手伝いをして頂き交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンメイト養成研修を受講し資格の取得した。学生に認知症の啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で運営推進会議が開催できていない。令和3年1月より、文書のみで報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場に赴いた際には担当の職員の方と情報交換を行い協力体制を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例検討を行い意見、質問の勉強会を行っている。身体拘束を行わない適切なケアの意見を出し合い職員全体で考え取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等の内部研修中で虐待防止に取り組む必要性についての知識向上、構築に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の関する気復命研修を、勉強会を行い必要性の説明を行っている。当ホームでも、ご家族の希望で、成年後見制度を利用し、弁護士を後見人として利用している事例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は丁寧かつ十分な説明を行い納得された上で契約を行っている。ご家族様の質問に分かりやすく説明し納得される事を重視し契約書を作成、締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で些細な事でも見落とさずご意見を聞き出している。また、こちらから要望、ご希望がないか伺い、要望等の項目に対し職員と協議し決定事項の共有に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員から出た意見、疑問を話し合い統一した指針を打ち出している。新しい取り組みを否定せず、より良い結果に繋げていけるよう職員から出た意見を大切にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、全職員の勤務姿勢、実績、取り組み等を把握し職員が業務に励める環境づくりを行っている。職員の満足度調査も行っており面談で直接、聞き取りを行い整備の取り組みに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響で外部、事業所の全体勉強会は密になる為、行える環境ではなかった。事業所独自の勉強会にて様々なテーマについて協議し自己向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東京の神明園(特養ホーム)とZOOMを使用した意見交換、研修を行い外部の取り組みの良い点を参考に事業所でも採用し相互作用の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は環境の変化に作用される事が多く見られる為、訴えの傾聴、共感を行い優しさ思いやりの心を常に持ち支援している。入居者様の意向に沿ったケアに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	GHIに入所に至るまでの経緯を伺い、ご家族の悩み訴え要望を聞き取り、一つずつ不安を解消できるよう分かりやすく説明する事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活歴や現在の状況を基に、ご家族やご本人からの要望の聞き取りを行いその方に合ったプランの作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事を否定せず共に行う事を常に持ち支援している。他入居者様との交流の橋渡しとなるよう職員が見守り感謝の気持ちを忘れず寄り添う姿勢を持ち関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月、状況報告を行っている。ZOOMを使用した面会も行っており、いつでも家族様入居者様の声、顔を共に見聞きする事が出来る環境づくりが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で外出の機会は制限されているが、電話やオンライン面会を活用し関係性の維持に努めている。また、本人様の希望により物品の購入を職員が行い喜んで頂けるような支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声掛け等を行い一人になる時間を作らせないよう職員が支援している。他入居者様と、おやつ作り、工作等を共に楽しみながら日常生活を過ごして頂ける支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了、退去されても、ご家族様へ些細な事柄でも相談して頂いてよい旨を、お伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身の思いを伝えられても否定せず共感する姿勢を職員が持ち入居者様の不安、思いをくみ取る力を養っていき本人様の立場に立ってのケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで過ごされてきた時間を尊重している。皆様の生活歴は異なる為、ご本人様の希望ご家族様からの会話の中からサービス利用の情報に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックを行っている。日頃より状態変化に関して注意をはらっており職員間で情報の共有を行っている。また残存機能を保つ為、その方に合った手伝い等をお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員からの気づきの意見を大切にしている。状態の変化に伴う事柄をご家族様に報告し安心して過ごして頂けるよう立案しモニタリングを行いより良いケア提供に繋がられるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした変化を見逃さず記録に記載している。その際には職員に報告を行い情報の共有を行っている。注意が必要な際には職員間で話し合いの時間をもち見直し検討の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の微妙な変化を見逃さずご家族様に報告。要望があった際には職員間で協議し実行、改善を図っている。また新しい気づきに対しても職員間で話し合いを行い安心したケアの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響で面会、外出が出来ておらず、その中で今まで過ごされてきた地域の話を聞き勉強させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医の定期的な回診、訪問診療の必要時の受診など、他の専門病院受診の際には、紹介状を発行して頂き、職員が付き添い適切な医療を受けられるように、支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察による変化、気づきの発見の際には看護師へ報告、時にはDrへ連絡し指示を仰いでいる。現場の意見も大切に連携協会に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には定期的な連絡を行い状態の報告を受けている。ホームで過ごされていた時との変化の報告が確認された場合、実際に病院に赴き職員目で状態の確認、病院からの詳しい現状を聞き取り退院時でも支援が行える体制づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の意向を尊重し、その方らしい方針を職員と検討している。ご家族も納得された上で主治医との話し合いを持ち今後の安心して過ごせるケアの提供に取り組んでいる。看取りの際には職員全体からの意見を聞きケアの統一、支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法、心肺蘇生技術の定期的な勉強会を行っている。救急搬送時のマニュアル作成、夜間待機者を設けており救急の際にも対応できる体制づくりを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所で防災管理部門が存在し各防災時の発生時の詳細なマニュアルが作成されている。発生時のグループ全職員の応援体制も決められており、各部署への周知徹底、防災意識の高い法人である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会、勉強会にて啓発活動を行っている。人生の先輩である事を肝に銘じ接遇を重んじた対応に徹している。問題ある対応者に関しては役職者より指導を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味、特技、性格を事前に把握し無理をされない範囲で本人様の出来る事を支援している。本人様との会話中、対応の中で自身にて決定できる方向に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴、時間を尊重しホームでも同様な生活ができるよう、その方に合った生活パターンを提供、支援している。日々、変化する状態、者があった際には職員が話し合い安心した生活が送れるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の化粧、衣類の好み等を大切に思い実践している。女性入居者様のカット等も訪問理容の予約にて対応しており、身だしなみやおしゃれを通して生活感を感じて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にも食材の切込み等のお手伝いを行って頂いている。ホーム内にある畑で収穫した食材を使用し季節感も味わって頂きながら支援をしている。また配膳、片付けも共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本としている。栄養バランスに隔たりが無いよう提供している。その方の嚥下状態に適した食事形態を考えトロミの使用も行っている。状態の変化が見られた際には職員間で話し合い刻み食等の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い実施している。歯ブラシに歯磨き粉をつけて行って頂く等、見守り対応している。スポンジ、ガーゼを使用し必要な方には介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。また訪問歯科の依頼を行っておりアドバイスを頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しその方の排泄傾向を把握している。トイレ誘導の声掛けを行い自然排泄ができるよう支援している。また、その方に合ったパット種類を考えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食材の提供に心掛けている。また水分摂取量を確認している。排泄時に腹部マッサージを行い自然排泄に繋がる介助を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方に入浴したいとの突発的な希望にも応じその方の希望に応じた入浴支援を行っている。身体状況に応じて入浴日を変更している。季節毎のゆず湯等を行って季節感を味わって頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、小時間の臥床時間を設け身体に負担のないよう取り組みを行っている。入床時間は決まっておらず、その方の希望に応じている。その際は休まれるまで寄り添い会話をしながら過ごす等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の処方内容をケースに保管、確認できるように管理している。薬については質問には看護師に尋ね処方変更時には記録に記載し周知している。服薬チェック表を作成し服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った好まれている作業を尊重して共に実行している。皆様、得意分野があり共に実施する事で楽しみを感じて頂ける支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で外出支援が行われていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には自身にて現金を所持しておられる方がいる。以前より、そのような環境のもと生活されていた事を尊重しており所持金額の確認は施設側が行っている。コロナ禍の影響により職員が必要物品の買い出しを行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には、ご家族様へ連絡、会話を行って頂いている。最近ではZOOMを使用した取り組みを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い所にソファを設置し日光浴をしながら会話を行う等、過ごして頂いている。入居者様の絵画、書道等を展示している。芳香剤を使用し心地よい環境づくりの工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを複数設置してあり自由に使用できるようにしている。ソファで休まれたり、仲睦まじく会話されたりされている。居室で自由に過ごされる方もおられ思い思いの時間を過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた物品等を居室内に設置し以前の様子で過ごして頂いている。ご家族様の写真を飾られともに過ごされている環境づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様の行動を見守り、すぐに対処できるよう取り組んでいる。安全な環境づくり危険物の撤去、改善を行いながら「できること」を行えるよう支援している。		